

**平成27年度
沖縄県競技力向上対策研修会**

平成28年 1月28日(木)

企画提案型競技力向上対策事業 の取組みについて(採用3年目)

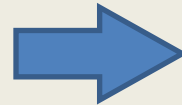
国民体育大会に向けた一貫指導体制 へのマルチモデル

小賦 肇

(沖縄陸上競技協会強化副部長/名桜大学)

日本における陸上競技シーズンの流れ

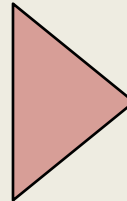
春と秋の2シーズン制



強化のボトムアップ！

5月～8月

- ◆中学校
通信陸上 → **全国中体連**
- ◆高校
IH予選 → **インターハイ**
- ◆大学
九州IC → **日本選手権**
- ◆一般
県選手権 → **日本選手権**



9月～11月

- ◆中学校
国体 → ジュニアオリンピック陸上
- ◆高校
国体 → 日本ジュニア、新人戦
- ◆大学
日本IC → **国体**、県民大会
- ◆一般
実業団 → **国体**、県民大会

学校単位での強化
大学における強化
チーム・個人での強化

沖縄陸協

チーム沖縄での強化
少年A、B、成年

国民体育大会（2016/岩手・2017/愛媛）の開催種目

1. 参加人数 … 監督2名、選手29名（男女各々19名以内）

2. 実施種目 … 「○」「◎」の種目

種目	男子				女子			
	成年	少年			成年	少年		
		A	B	共通		A	B	共通
100m	○	○	○		○	○	○	
200m								
400m	○	○			○	○		
800m	○			○	◎		○	
1500m								○
3000m			○			○		
5000m		○			○			
10000m								
110/100mH	○			○	○		○	
400mH	○	○				○		
3000SC								
3000mW								
5000mW				○	◎			
10000mW	○							
走高跳	○			○	◎			
棒高跳		○			○			○
走幅跳	○	○	○			○	○	
三段跳				○	○			○
砲丸投			○				○	
円盤投	○			○				○
ハンマー投		○			○			
やり投	○	○			○			○
400mR		○				○		

※◎の成年女子800m，成年女子5000m競歩、および成年女子走高跳には、少年女子Aからもエントリーできる。

平成26年度(採用2年目)における課題と対策

課題

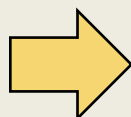
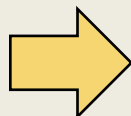
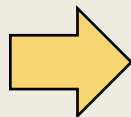
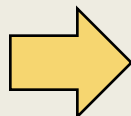
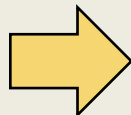
①小学生からのタレント発掘

②女子競技者の拡大及び育成

③得意種目の推進(種目適応)

④指導者育成

⑤成年の定着化と雇用先の開拓



対策

①小学生大会の企画・開催

②他競技との情報交換・連携

③県外・海外派遣

④指導者招聘事業(講習会)

⑤県体協、経済界・企業等へ
支援相談

課題①:小学生からのタレント発掘

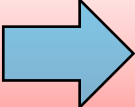
対策 → 小学生大会の企画・開催

■ 沖縄陸協 普及部と陸協中体連での取組み

- 8月 小・中学校合同練習会(30名)黄金の森
- 10月 ディスカバリー陸上 in 名護(100名)
- 2月 短距離・跳躍指導者招聘
(神奈川中体連専門部)

小学生やクラブチームへ連携を働きかけた

課題②: 女子競技者の拡大及び育成

対策  他競技との情報交換・連携

■ 各カテゴリーで女子の参加を促す

合同練習会
県内合宿
県外合宿派遣

県内外合宿へ女子派遣割合を増加
今年度は育成・競技力向上より拡大・普及が
主な目的となった

課題③:得意種目(投てき)の推進(種目適応)

対策 → 県外派遣

- 例年通り県内外合宿を実施。
- 指導者・トップアスリート招聘事業を実施。

合同練習会、県内外合宿派遣
2016岩手国体・2017愛媛国体

国体種目への対応が必要
投てき種目・跳躍種目の安定した強化
(国体戦略)

課題④：指導者育成

対策 → 指導者招聘事業（講習会）

■ 各カテゴリーの指導者を招聘

2月 短距離 全国高体連強化部（高校教諭）
高体連強化合宿に合わせ実施
（予定）

沖縄県指導者の県外・海外派遣（長期）

課題⑤：成年の定着化と雇用先の開拓

対策 → 県体協、経済界・企業等へ支援相談

■ 国体(陸上競技)近年の傾向

8～9月に五輪、世界選手権を終えた日本代表選手が10月の国体へ出場する傾向
リレーや短距離の入賞レベルが上昇

沖縄県出身競技者の競技継続環境の整備

平成26年度強化事業内容計画①

番号	事業細目	事業目的(内訳)	期 日	場 所	参加人数 (総計)
1	小・中・高・大学 連携事業	週末や休日に日帰り強化練習会 専門的技術向上と各選手間意識 の高揚	6月～1月	黄金の森 ほか	指導者:50名 成年:10名 少年:120名 小学:40名
2	選手強化事業	県外合宿 県外強豪選手と切磋琢磨し各選 手の意識の高揚を図る	7月～8月	佐賀 福岡 宮崎 ほか	指導者:3名 選手:6名
		県内合宿 質の高い練習を実施し各選手の 意識の高揚	7月～2月	国頭 糸満 など	指導者:20名 選手:50名
3	医・科学事業	トレーナー研修県外(高校総体) 派遣	8月	和歌山	トレーナー :2名

平成26年度強化事業内容計画②

番号	事業細目	事業目的(内訳)	期 日	場 所	参加人数 (総計)
4	測定データ事業	平成28年度国体入賞可能な選手の医・科学データ測定 海外事業と合わせて実施予定	11月	NTC・JISS 海外NTC	指導者1名 選手:2名
5	指導者招聘事業 (指導者講習会)	沖縄陸上競技協会強化部 (別日程で1名ずつ招聘)	2月	糸満	指導者:1名 指導者:1名
6	普及・連携事業	沖縄陸上競技協会普及部・中体連陸上競技専門部技術研修会	8月～2月	黄金の森 名護	指導者:20名 選手:150名
7	海外事業	パリで計画中であったが中止 指導者招聘事業へ代替え検討	2月	フランス	選手:1名 指導者:1名

その他、県中体連合同練習会、県高体連強化合宿、各種合宿へ学生の派遣など

実施3年間における成果

■一貫指導体制

小・中・高・大学・一般の連携構築

■指導者招聘事業の充実

3年で6回/6名を招聘(H28/2までに)

■海外派遣事業

海外合宿、海外優秀コーチへ従事

国体3大会入賞＝知念春乃(成年ハンマー投げ)

国体・高校総体連続入賞＝津波響樹

世界ジュニア陸上代表(少年走幅跳)

実施3年間における課題

■ 一貫指導体制構築

小・中・高・大学・一般の連携強化できたが
指導体制構築は現在進行形である

■ 次世代の指導者育成

20代～30代の指導者(教員採用試験)
外部指導者(コーチ)制の任用充実

■ 結果・点数

当初計画と現実
得点できているが目標設定よりやや低い

■ 事業継続の必要性

企画提案型事業最終年 → 一過性

2020東京 沖縄県からオリンピックを！

